

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く ⑦⑤

伊吹山のお花畑

— 国天然記念物・伊吹山頂草原植物群落 —

花を求めて山頂へ

登山に最適なシーズンになりました。伊吹山にはたくさんの方が登られます。山ガールとよばれる女性のグループ、伊吹山が好きだから何度もこられる方、健康志向の方、かつとび伊吹のトレーニングをされている方、パワースポットとして山の力にあやかろうとする方、その目的はさまざまです。そして、春から秋にかけて咲き誇る花を求める人々。シダ植物以上の高等植物が、県全体で見られる約二三〇〇種類のうちの約一三〇〇種類があります。標高一三七七メートルで、低山に分類される伊吹山に、全国の山でもまれなお花畑が広がっているのはなぜでしょうか。それは、一億五千万年前にこの地に隆起したとされる「古い成り立ち」と、日本列島の真ん中、自然と

文化の接点にそびえる「位置」に、大きな要因があります。

植物分布の特色

■高山または亜高山性植物の存在
(分布の西南限の種類)

伊吹山の三合目（標高七二〇m）より上では、本来一五〇〇メートル以上の山でしか見られない高山または亜高山性植物が見られます。これらは北方系要素とよばれる植物で、氷河期に、その発生地である北極やその周辺からアムール・カラフトを経て日本へ、またはアラスカ・カムチャツカから千島を経て日本へ入り、北海道から本州へ、そして奥羽山脈・中部山岳地帯を通じて滋賀県へも南下したと考えられるものです。多くは石川県の白山が南限となり、高山を持たない滋賀県にはわずかしかなりませんが、伊吹山地まで分布

を広げ、伊吹山が西南限となつている植物があります。特に貴重な植物にはグンナイフウロ・イブキノモツモ・エゾフウロ・ハクサンフウロ・エゾノタチツボスミレ・キンバイソウなどがあります。ニッコウキスゲも分布の南限に近い種です。

■固有種（特産種）の存在

伊吹山は古い山のために、この山で独自に進化し、日本中で、ここで見られない固有種（特産種）があります。さらに、石灰岩地という特殊性と、中腹以上のやや高山的な気象条件から、残存したり、新種形成がおこなわれたと考えられます。コイブキアザミ・ミヤマコアザミ・ルリトラノオ・イブキコゴメグサ・イブクレイジンソウ・コバノミミナグサ・イブキタンポポなどがあげられます。

■日本海要素の植物の存在

世界一の積雪記録をもつ伊吹山には、日本海側斜面で発生、またはそこを根拠地とした雪の多い地域に分布する植物が見られます。セリモドキ・イワナシ・クロバナヒキオコシ・ハイイヌガヤなどがそうです。

■石灰岩地を好んで生える

植物の存在

典型的な石灰岩地帯のため、水持ちの悪い石灰岩地を好む植物が多数見られます。イチヨウシダ・ヒメフウロ・イワツクバネウツギ・イブキコゴメグサ・キバナハタザオ・クサボタンなどがあります。

このほか、北方系とは逆に、西南日本の中央構造線以南の地域に分布の本拠をおく植物や、日本列島が大陸と地続きであった地質時代の乾燥・寒冷期に、日本へ分布を拡大してきたと考えられる、中国の東北部（旧満州）や朝鮮に本拠をもつ温帯性の植物も見られます。昔から、各地の植物が伊吹山を通過し、山にとどまったことがわかります。

（歴史・文化財保護室）

